

日本百名山の花

## 荒島岳

### トクワカソウ

白山の項でも述べたが、深田久弥は故郷・大聖寺から隣県の福井中学に通った。ここで山と出会い、福井の山々を登ることとなった。日本百名山を選定するに当たって、第二の故郷であった福井県から一座をと考えた。ところが、福井県には名山が無い。敢えてと言う事で、能郷白山とこの荒島岳が選ばれた。そして、「能郷白山もよく見えたが、山の気品のある点では、荒島岳が上だった。」と記している。

この山には、福井の学生時代に苦い経験がある。夏休み、荒島岳に登ろうと、テント一式を担いで向った。登山口は佐開集落。かなりの酷暑の日で、バス停から登山口まで辿り着いたが、ここでかなりの熱中症がみ。登山道途中で断念したのである。

その後、スキー場のある勝原から登った。山頂にはブルドークザーが置かれていて、びっく

日本百名山には山の花の記

述はあまりない。深田久弥は、花よりも山頂よりの眺望を第一に考えていた。荒島岳の頂に珍しく花の記述がある。「・・・主峰までの登りで、真黄の咲き溢れたウツギの花と、・・・」。ウツギの花は純白。すると、この黄色の花は何だろう。登ったのは五月。この頃荒島岳に黄色い花はない。何かの勘違いだろうか。

春四月、ブナ林を登ると、登山道沿いに、トクワカソウが列をなして咲き揃っている。この

花、ブナと運命共同体。温暖化が懸念される昨今、全国のブナの巨木が相次いで倒木している。ブナが無くなれば、トクワカソウも消える運命。実にか弱き野の花である。

